松島　裕彦	代表取締役専務	平成28年６月24日～平成30年６月株主総会日	―
西牧　世博	専務取締役	平成28年６月24日～平成30年６月株主総会日	―
松木　裕之	常務取締役	平成28年６月24日～平成30年６月株主総会日	―
矢田　栄一	常務取締役	平成28年６月24日～平成30年６月株主総会日	―
山西　弘泰	取締役	平成28年６月24日～平成30年６月株主総会日	―
森下　聖史	取締役	平成28年６月24日～平成30年６月株主総会日	―
常盤　百樹	取締役	平成28年６月24日～平成30年６月株主総会日	―
藤本　浩美	取締役	平成28年６月24日～平成30年６月株主総会日	―
四宮　徹	監査役	平成27年６月23日～平成31年６月株主総会日	―
竹﨑　克彦	監査役	平成27年６月23日～平成31年６月株主総会日	―
宮本　裕之	監査役	平成27年６月23日～平成31年６月株主総会日	―

⑶　社員数（平成28年４月１日現在員）
2,507人

日本貨物鉄道株式会社　平成27年度決算等に関する公告

平成28年８月31日

東京都渋谷区千駄ヶ谷五丁目33番８号
日本貨物鉄道株式会社
代表取締役社長兼社長執行役員　田村　修二

1　平成27年度の貸借対照表及び損益計算書の要旨

貸借対照表の要旨

（平成28年３月31日現在）　（単位：百万円）

科目	金額	科目	金額
流動資産	39,628	流動負債	62,813
固定資産	319,481	固定負債	244,311
		負債合計	**307,125**
		株主資本	51,977
		評価・換算差額等	7
		純資産合計	**51,984**
資産合計	**359,110**	**負債及び純資産合計**	**359,110**

損益計算書の要旨

（平成27年４月１日から平成28年３月31日まで）

（単位：百万円）

科目	金額
営業収益	155,578
営業費	147,047
営業利益	8,531
営業外収益	449
営業外費用	3,008
経常利益	5,971
特別利益	3,398
特別損失	858
税引前当期純利益	8,511
法人税、住民税及び事業税	3,263
法人税等調整額	168
当期純利益	5,079

㈱　１　有形固定資産の減価償却累計額　382,368百万円
２　１株当たり当期純利益　13,366円46銭

2　主たる事務所の所在地、ディスクロージャー担当部署及びその電話番号

⑴　主たる事務所の所在地　東京都渋谷区千駄ヶ谷五丁目33番８号
⑵　ディスクロージャー担当部署　総務部
⑶　電話番号　03―5367―7370

3　平成28年度の事業計画の概要

「中期経営計画2016」の最終年度として鉄道事業黒字化を達成するべく、営業力の強化を背景にダイヤ改正で再編・強化した商品を積極的に販売しモーダルシフトの流れを加速させる。収支改善に向けた構造赤字部門の抜本的改革、新商品・新技術の開発、連結決算の本格開始による「３つの構造改革」に取り組み、安定した利益を上げていく企業グループとしての基礎を構築する。

	輸送量の見通し		列車の運行量
	輸送トン数	輸送トンキロ	
コンテナ	2,303万トン	206億トンキロ	61百万キロ
車扱	841万トン	12億トンキロ	４百万キロ
計	3,144万トン	219億トンキロ	65百万キロ

㈱　上記の数値は、経済情勢の動向等により変更する場合がある。

4　平成27年度事業報告の概要

鉄道貨物輸送においては、安全の確保に最大限取り組むとともに積極的な営業を展開した結果、積合せ貨物、食料工業品をはじめとして堅調に推移し上半期、下半期を通じて運輸収入・輸送量とも26年度を上回ったが、下半期に入り国内消費の伸び悩み等景気の停滞を受け荷動きは悪化した。鉄道貨物輸送量は、コンテナ貨物は2,211万トン（前期比2.7％増）、車扱貨物は866万トン（同1.2％減）となった。

当期は中期経営計画の２年目として、役員・社員が一丸となって「意識改革」、「計数管理の改革」、「組織改革」の経営改革の３つの柱に取り組み、社員一人ひとりが自発的に参加する「ボトムアップによるコスト削減」施策等を通じて収支改善を推進した。鉄道事業の営業損失は33億円（前期比17億円改善）と事業別開示を開始以来最高となり、経常利益は59億円（同27億円増）と平成２年度以来25年振りの最高水準を確保した。

5　国からの出資金及び補助金等の額（平成28年度予算）

青函トンネル共用走行用専用機関車等助成金　1,450百万円